

新病院開院 1 周年を迎えて 広報げろ 2013.08

新病院開院 1 周年を迎えて

新病院は旧病院が老朽化し建物の維持が困難になったために移転新築されました。診療を初めて一年。床面積は 1.5 倍となり診療空間に余裕は出来ました。また病院周辺の療養環境も有効に利用できる様になってきました。

しかし診療体制は旧病院のものをそのまま引き継いだものであり本来病院に必用であったものをのぞいて新しく加わったものはありません。新しい診療科の開設に必用なスペースはありません。病院の要望に対し、下呂市は建設予算の大幅は削減により建物面積を現在の広さに決めたからです。結果的には病院建設にかかった費用を返済する額が減少し今後の病院運営の重荷を減らすことにはなりました。

金山町時代から現在まで病院の運営から建設費まで金山町、下呂市からの補助は受けておらず、公立病院の宿命である不採算部門に対しては国からの地方交付金が充てられてきました。今後建設および跡地整理に関わった費用は病院の運営費から支払われていくこととなります。病院の運営費は 9 割が皆さんからいただく受診料、約 1 割は国からの地方交付金です。(病院がなければ交付されないものです)。

受診料は病院運営のために大変重要ですが収入を得るためにもう一つ重要な要素がマンパワーです。医師の招聘は困難を極めています。今後地域枠で養成された医師の獲得に向けての努力が必用です。さらに、病院の基本診療料は看護師の人数で決まりますがその看護師が足りないのです。一人の看護師が働く時間は決められておりお金で解決できるものではありません。人工透析の対象者が増加している折、新病院では透析用ベッドを 5 床から 10 床に増床しましたが看護師不足のため予定人数の受け入れが出来ない状態です。

手当の増額、看護師の仕事を補助する看護助手の増員、保育所など勤務環境の整備をはかることによって看護師を増員しなければ診療収入を増やすことは出来ず病院の健全な運営に支障を来します。

最近、地域外から看護師を求めるのはたいへん困難で、当地域の病院で働ける看護師は当地域出身者に期待せざるを得ない状況です。そのような中で下呂市では看護師奨学金制度を設けており下呂市で働く看護師の増加が期待されています。病院も新しくなった折、多くの貸与者の皆さんが金山病院で働いて地域を支えていただくことを期待しています。今後、より積極的な看護師対策のために病院経営では常識である病院独自の奨学金制度の創設も必用と考えます。

公務員数削減のため総定員が決められています。しかし病院は働く人の人数によって収入が決められている企業であり、人を減らせば収入が減り経営が成り立たなくなります。また病院は人が人をお世話する意味ではサービス業でありサービスを良くするためには人が必用です。現在のところ、サービス向上のために足りない人員は非常勤職員とボランティアに頼ることになります。金山病院では看護師の指示に従って診療の補助を行う非常勤の看護補助者を募集しています。また、どのような形でもお手伝いいただけるボランティアを求めていますので、ご意志のある方は病院事務方までお申し出いただければ幸いです。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦